

(6) 野生イノシシにおけるアフリカ豚熱防疫措置 の具体化に関する緊急実証研究について



NARO

畜産研究部門 動物行動管理研究領域 動物行動管理グループ 平田 滋樹・小泉 亮子

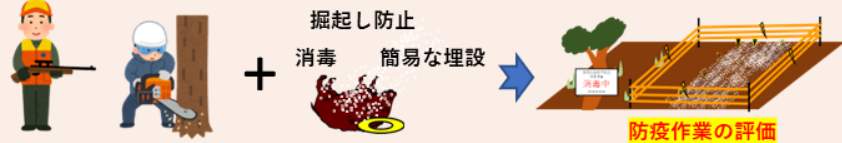
動物衛生研究部門 越境性家畜感染症研究領域 海外病グループ 西 達也・生澤 充隆

ASF対策の具体化について（研究の構成）

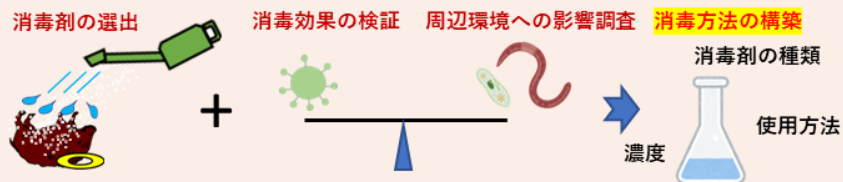
① 野生イノシシの適正な死体処理方法の開発

①-1 防疫作業（採材、死体処理）の妥当性、実現性等の評価検証

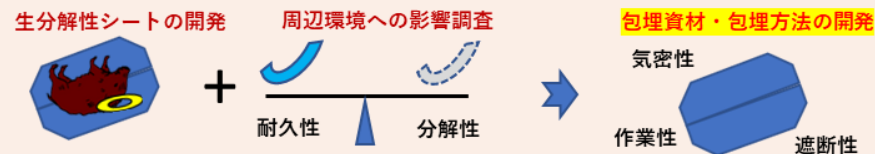
山林内での作業者の行動調査 イノシシの死体処理方法の検討 適正な死体処理方法の確立



①-2 野生イノシシの死体処理における消毒方法の開発実証



①-3 野生イノシシの死体処理における包埋方法の開発実証



② ASF・CSFの採材手法および高感度検査方法の実証

②-1 ASF・CSFの採材手法の確立およびウイルスの残存性の検証



②-2 ASF・CSFの高感度検査方法の開発実証および普及手法の検討



農林水産省 令和5年度 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業のうち短期課題解決型研究「野生イノシシにおけるアフリカ豚熱防疫措置の具体化に関する緊急実証研究」で実施中

▶ 現在、自治体や猟友会等の協力のもと実施中

欧州におけるASF対策の事例（探索・回収）



森林（林縁および湖沼を含む）での
イノシシ死体の探索

Dr. Paulius Bušauskas, Lithuanian State Food and Veterinary Service



湖沼でのイノシシ死体の回収
（ボートを使用した探索と回収）

Dr. Paulius Bušauskas, Lithuanian State Food and Veterinary Service



森林でのイノシシ死体の回収と搬出

イノシシの生息環境の違い



欧州の特徴

- 森林率が20%程度
- 丘陵地域が多い
- 森林整備が進んでおり森林構造、森林構成がやや単調



日本の特徴

- 森林率が約68%
- 高標高地域も地域多く地形が複雑（傾斜地も多い）
- 欧州にはないササやタケなども含めて森林構造が複雑

▶ 地形、気候、植生、土地利用、そして森林率などが異なる